

TA-DA5600ES 接続・設定ガイド

この接続・設定ガイドでは、スーパーオーディオCD/CDプレーヤー、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレーナー、スピーカー、アクティブサブウーファーを接続して、マルチチャンネル音声を楽しむときのつなぎかたの例を説明しています。その他の機器のつなぎかたについて詳しくは、取扱説明書をご覧ください。



スピーカーを設置する

スピーカー、他機と接続する

接続の最後に電源コードをつなぐ

自動音場補正機能を使って スピーカーを設定する

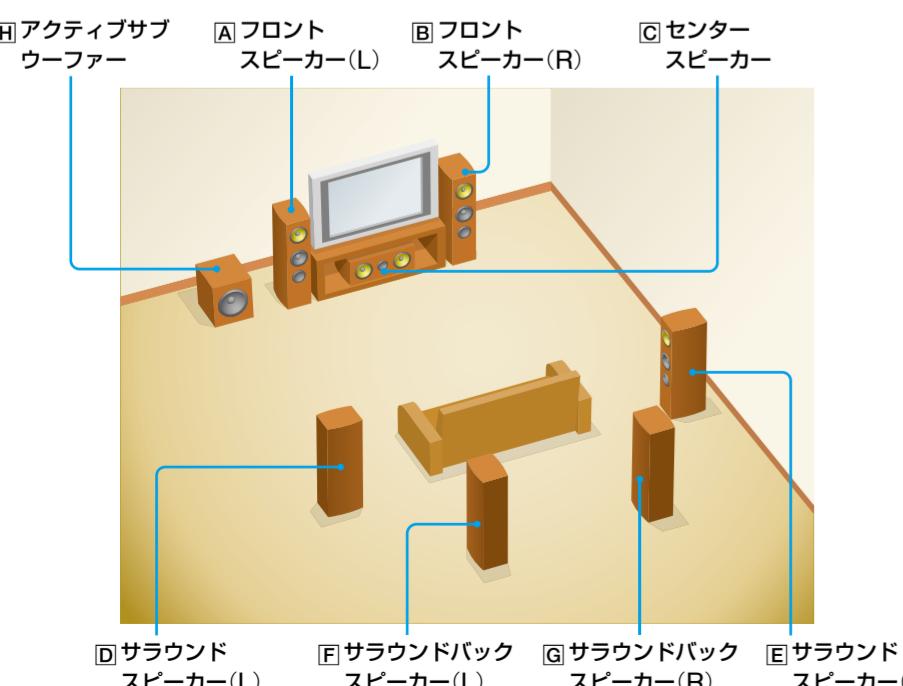
他機の設定をする

スピーカーを設置する

下の図は7.1チャンネルスピーカーシステム(スピーカー7本とアクティブサブウーファー1本)の例です。詳しくは、取扱説明書の「準備1:スピーカーを設置する」をご覧ください。

7.1チャンネルスピーカーシステムの設置例

Ⓐ～Ⓑは右の欄の「スピーカーを接続する」のⒶ～Ⓑと対応しています。



スピーカーを接続する

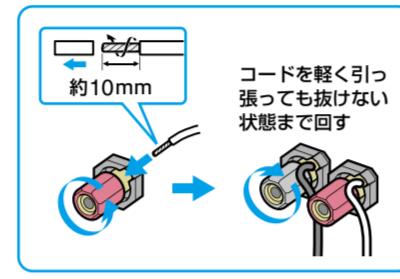
お手持ちのスピーカーの数と種類に合わせて、必要なスピーカーを接続してください。

スピーカーコードについて

- スピーカーコードは部屋の広さに合わせて必要な長さのものを用意ください。
- スピーカーコードはコードに文字、線などがある方を-(マイナス)側に接続するなど決めておくと、+と-を間違わずに接続できます。

スピーカー端子について

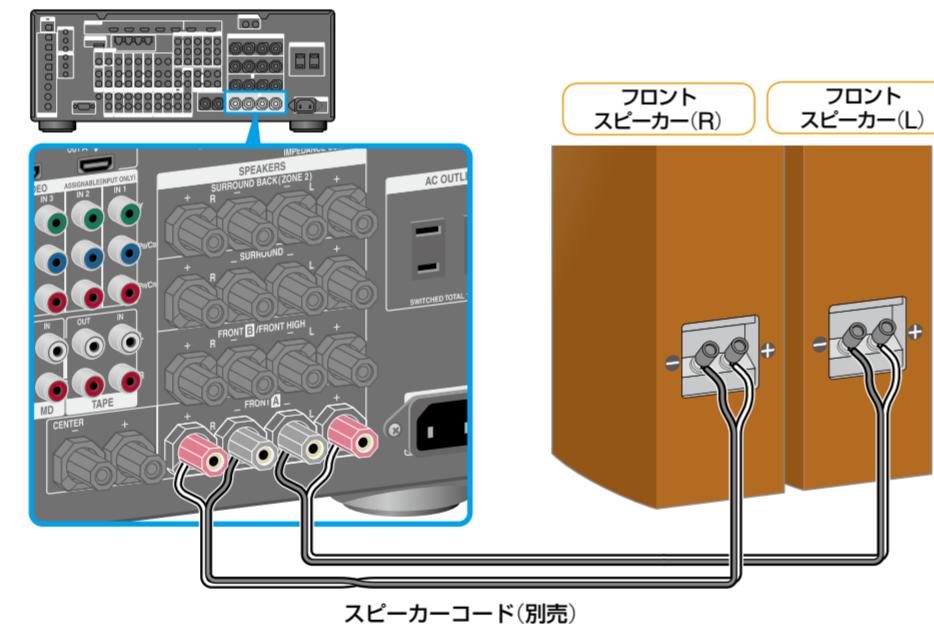
- スピーカーの④端子はアンプの④端子に、①端子は①端子に接続してください。
- スピーカーコードの接続のしかたは、下のイラストや別紙のスピーカー接続をご覧ください。



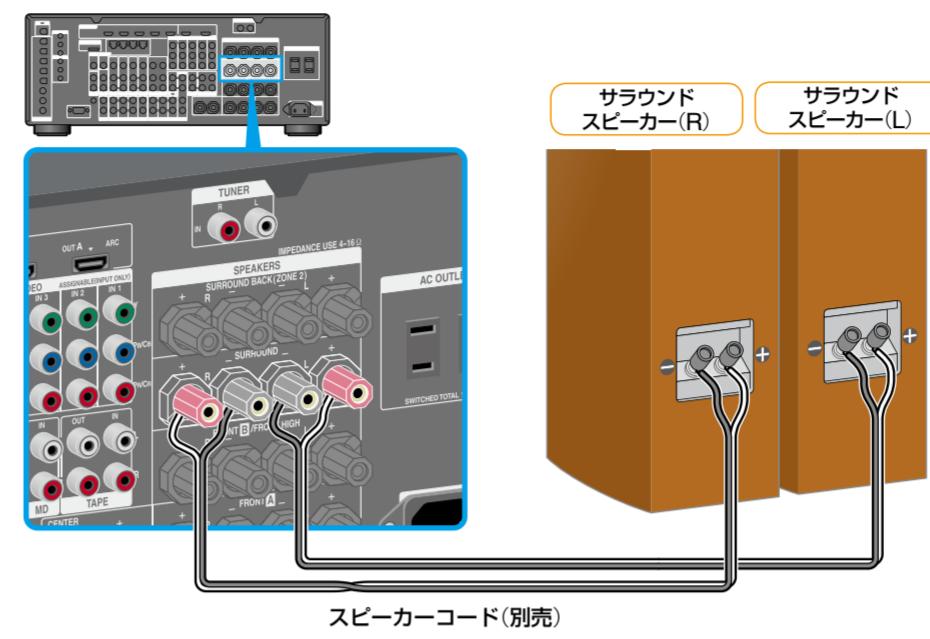
SPEAKERS(A/B/A+B/OFF)ボタンについて

使用するフロントスピーカーシステムを選べます。詳しくは、取扱説明書の「準備8:スピーカーを設定する」をご覧ください。

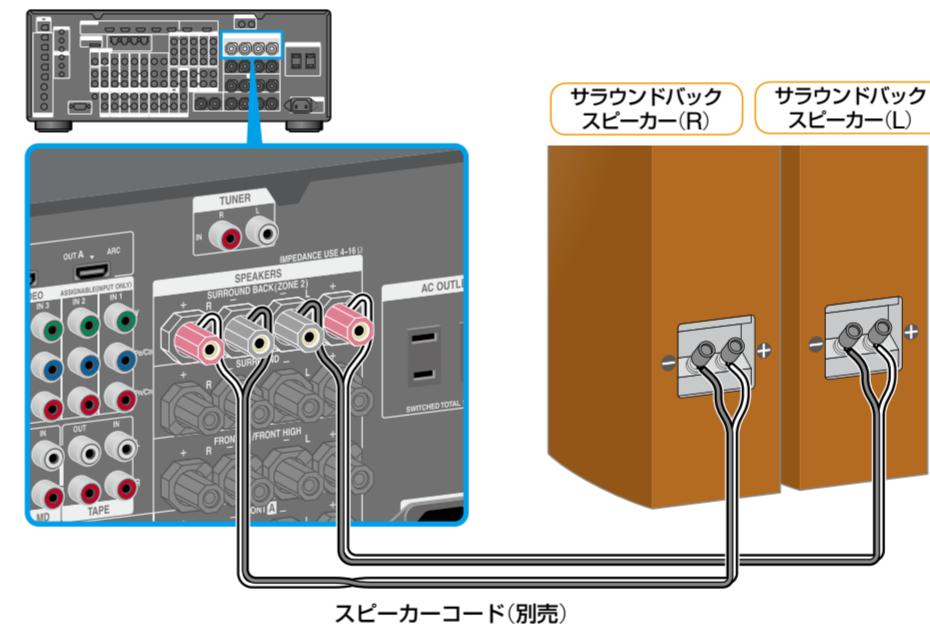
A/B フロントスピーカー(L/R)



D/E サラウンドスピーカー(L/R)



F/G サラウンドバックスピーカー(L/R)

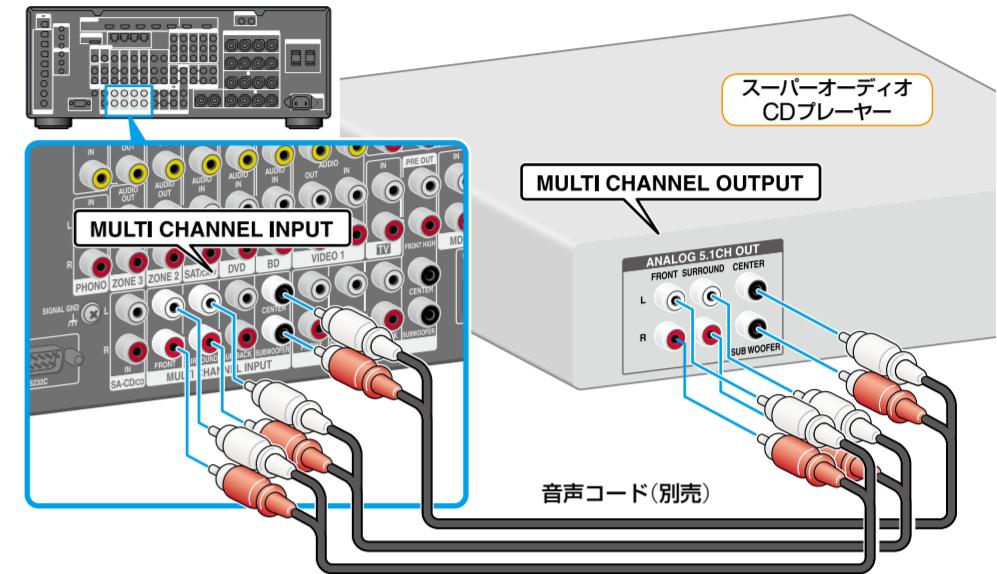


他機と接続する

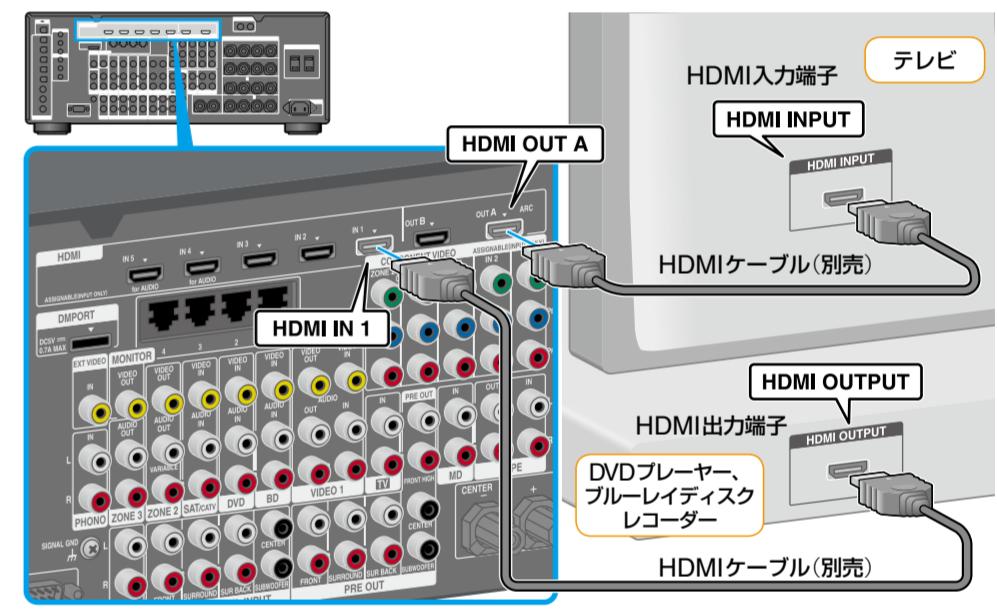
本機とお手持ちの機器のつなぎかたの例です。他の接続のしかたについては、取扱説明書の「接続と準備」の「準備2」から「準備4」をご覧ください。

本機には映像信号の変換機能があります。詳しくは、取扱説明書の「準備3: 映像機器を接続する」をご覧ください。

スーパーオーディオCDプレーヤー



映像機器

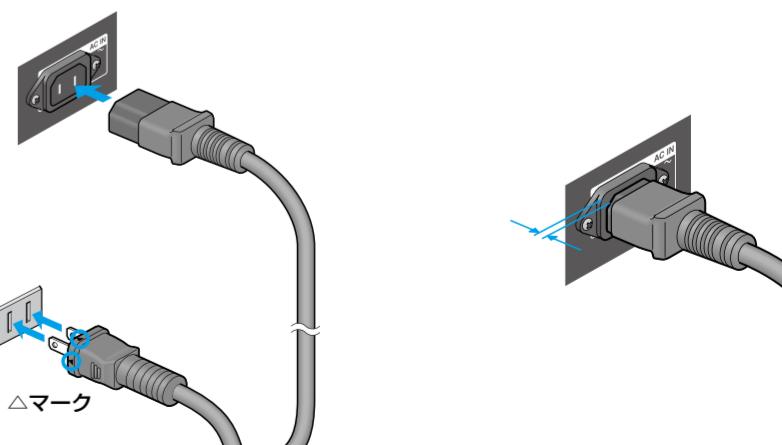


接続の最後に電源コードをつなぐ

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。

付属の電源コードを本機背面のAC IN (100 V)端子に接続し、電源コードのプラグを壁のコンセントに接続します。

本機背面に電源コードを奥まで差し込んで、プラグと本機背面の間に数ミリの隙間ができるますが、これで正しく接続されています。

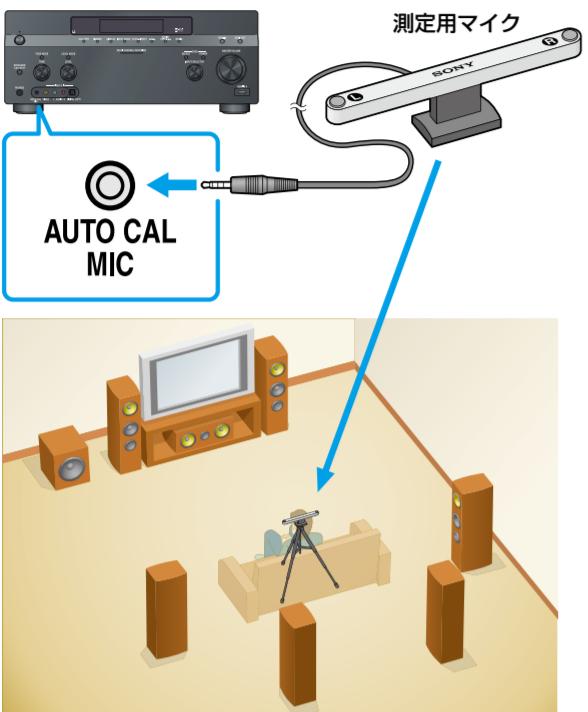


付属の電源コードには、上の図のようにN極側に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、長い側がN極側です。

自動音場補正機能を使ってスピーカーを設定する

本機の「自動音場補正機能」を使って、リスニング環境に適したスピーカー設定を自動的に行います。

1 測定の準備をする



2 測定する



測定項目: スピーカーの有無、スピーカーの極性、スピーカーの距離、スピーカーのサイズ、スピーカーのレベル、周波数特性

ご注意

- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア(機器の設置エリア)の外側に出てください。

1 スピーカーとテレビを設置・接続する。

詳しくは、おもて面をご覧ください。

2 スピーカーパターンを選ぶ。

フロントハイスピーカーをつないでいる場合は、測定のたびにフロントハイスピーカーありのスピーカーパターン(5/■■または4/■■)を選んでください。正しいスピーカーパターンを選んでいないと、フロントハイスピーカーの特性は測定されません。

なお、5/2.■または4/2.■のようなスピーカーパターンで測定しても、本機にサラウンドバックスピーカーやアクティブラバーアウトをつないでいる場合は、検出されたスピーカーをすべて使うスピーカーパターン(5/4.1など)に自動的に設定されます。使用したいスピーカーの数を変更する場合は、測定後にお好みのスピーカーパターンを手動で選び直してください。

サラウンドバックスピーカーやアクティブラバーアウトの測定値は本機に保存されているため、あとから5/4.■など、それらのスピーカーがあるスピーカーパターンに戻すことができます。

3 測定用マイク(付属)を本機前面のAUTO CAL MIC端子につなぐ。

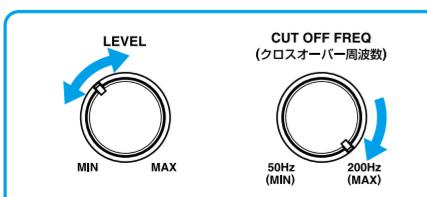
AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながりません。本機やマイクの故障の原因になります。

4 測定用マイクを設置する。

測定用マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。測定用マイクのLをフロントスピーカーLに、マイクのRをフロントスピーカーRに合わせてください。

アクティブラバーアウトの設定について

- アクティラバーアウトをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量はボリューム(LEVEL)つまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ(無効)にしてください。

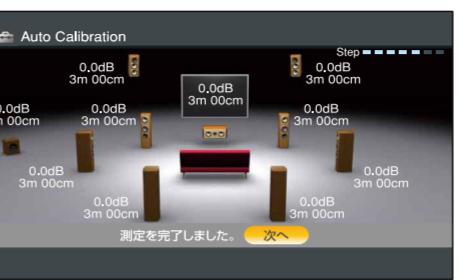


ご注意

お使いになるアクティラバーアウトの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。

8 「開始」を選んで、⊕を押す。

5秒後に測定が開始されます。測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。



9 「次へ」を選んで、⊕を押す。



10 ←/→をくり返し押して、「はい」を選び、⊕を押す。

補正タイプの選択画面が表示されます。



11 ↑/↓をくり返し押して、補正タイプを選び、⊕を押す。

補正タイプ	説明
Full Flat	各スピーカーの周波数特性を平らにします。
Engineer	ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
Front Reference	すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。
User Reference	Setup Managerで調整した周波数特性にします。この補正タイプはSetup Managerで周波数特性を調整した場合のみ表示されます。
OFF	自動音場補正のイコライザをオフにします。

測定結果が保存されます。

12 →を押す。

終了画面が表示されます。



13 ⊕を押す。

警告が出たときは

手順9でテレビ画面に「測定は終了しましたが、測定結果に注意事項があります。確認しますか?」というメッセージが表示され、「はい」または「いいえ」で警告を確認するかどうかを選べます。

「はい」を選んだときは、テレビ画面の指示に従ってください。

警告やエラーについては、取扱説明書の「準備9:自動でスピーカーを設定する(自動音場補正機能)」の「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」をご覧ください。

ちょっと一言

スピーカーのサイズ(LARGE/SMALL)は低域特性で判定します。測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、Speakerメニューで設定を変更することもできます。変更する場合は、測定結果を保存してから変更してください。

他機の設定をする

本機につないだ機器を再生するときは、スピーカーから正しく音を出すために各機器側の設定も必要です。

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、デジタル音声設定を確認してください。ブルーレイディスクレコーダーでは、「HDMI音声出力」が「自動」、「ドルビーデジタル」が「ドルビーデジタル」、「DTS」が「DTS」に設定されていることを確認してください。(2010年6月現在)

プレステーション3では、「BD / DVD音声出力フォーマット(HDMI)」、「BD音声出力フォーマット(光デジタル)」がそれぞれ「ビットストリーム」に設定されていることを確認してください。(システムソフトウェア3.30の場合)
以下はソニー製機器の場合の設定方法です。

ソニー製スーパーオーディオCDプレーヤー

必要に応じて適切な再生モード(マルチチャンネルか2チャンネル)を選んでください。2チャンネルを選んでいると、フロントスピーカーL/Rからしか音が出ないことがあります。

設定が終わったら

これで本機をお使いいただく準備ができました。

さらに詳しい操作については取扱説明書をお読みください。

オートスタンバイ機能について

本機はオートスタンバイ機能により、一定時間操作や信号の入力がないときに、本機のメインゾーンを自動的にスタンバイ状態に切り替えます。

詳しくは、取扱説明書「システム設定(System)」の「Auto Standby」を参照してください。